

うちゅうみみず スペース ワームくん

長崎県

一年 南 遥紀 さん



まずは、最優秀賞受賞おめでとう
ございます。今回、大変な反響が
あったことと思います。堂々とした
発表でびっくりしました。緊張し
ませんでしたか。

はい。

では、点数を付けるとしたら何点
でしたか。

百点です。

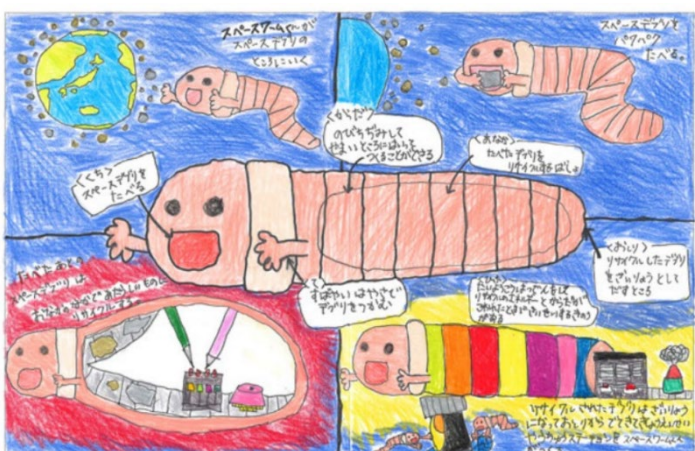
それはさすが。

さて、今回発表を聞いて、不思議
に思ったことがあります。「宇宙」
と「ミミズ」がどうやって結びつい
たのかということ。遥紀さんは、

「宇宙」に興味があるのですか。

はい、おじいちゃんの家で、テ
レビを見ていたら、「スペースデ
ブリ(ごみ)」のことを言ってい
たのです。宇宙のごみを集めて、
そのごみをリサイクルしてまた
使えるようにすれば、宇宙のご
みはなくなり、地球も安心です。

一年生と言えば、テレビでアニ
メを見たり、お笑いなどを見た
りすることが多いのではないかと
思うのですが、遥紀さんは、難
しいことに興味があるのですね。
そういう知識や情報については、
テレビの他にどうやって、知る
のですか。



長崎の図書館で、本を借りて知
ることが多いです。家族全員で
図書館によく行きます。それか
ら、お兄ちゃんから教えてもら
うこともあります。

図書館が情報源なのです。ア
ドバイザーのお父さん、家族で
よく図書館に行かれるのですか。

図書館に近いところに住んでい
て、ほとんど毎週家族で本を借
りに行きます。普段、遥紀は、
歴史や科学の本を中心に読んで

いるのですが、今の興味は、織
田信長や日本の合戦に移ってき
ていますね。兄と二人で、織田
信長の後に豊臣秀吉がいて、徳
川家康がいて、実はこうだとか、
よく話をしています。兄は今、
小学六年生なのですが、三年生
の時に本コンテストの最終審査
会に出していただきました。遥
紀も一緒に東京に行って、兄や
出場者の発表を見てきました。
いろいろなことに興味があるの
は、こうしたことも影響してい
るようです。(父)

なるほど、本コンテストやコン
テストに出場したお兄ちゃんと
の会話も情報源や興味の元にな
っているのですね。

では、「ミミズ」についての情報
は、どうでしょう。図書館やお兄
ちゃんから、知ったのですか。

違います、僕の小学校に、夏
になったらミミズがいっぱいい
るので、それで知りました。昼
休みにずっと見ていました。

生活科などの授業中ではなくて、
実際に昼休みに見て知ったので

すか。一人で観察するのですか。

いいえ、友達と見ていました。
そして、ミミズが、はっぱなど
を食べることを知りました。

なるほど、こうして「ミミズ」が
はっぱを食べる姿から、スパー
ステブリを食べることにつな
がったのですか。

他に分かったことはありませんか。

はい。ミミズは学校の裏山など
いろんな所に巣を作っています。



アイディアの種は、 家族で通う近くの図書館、 そして、 日常の学校生活の中に・・・

ですが、発表の練習は、大変だったようです。

発表が、長くなり過ぎて、ママにもうちよつと短くしようって言われました。

ああ、なるほど、二分以内で発表しないといけないですからね。

その後のチャレンジシートには、「また、つぎのしれんがあらわれた」とありますが、どんな試練だったのですか。

せっかく覚えたのに、また覚えなれないといけないし。言葉が難しく出てこなかった。それに、言葉を覚えていた時に動きを入れたら、あんまり上手にできなかったし。

それをどうやって乗り越えていったのですか。

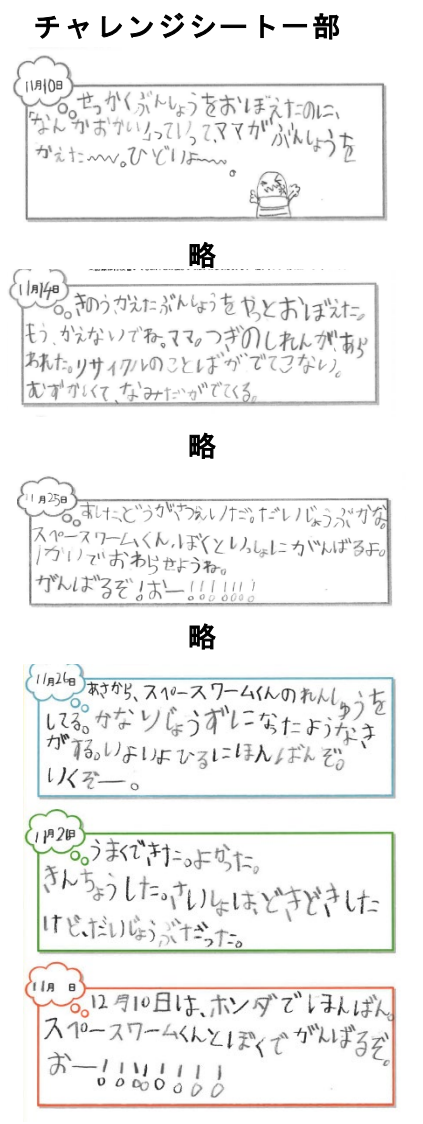
お兄ちゃんとママに、お客さんの役をしてもらって、それで練習を続けました。

おうちの方が応援してくれたのですね。(略)このコンテストで自分が成長したところはどこだったと思いますか。

今までは、緊張してあんまり言いづらかったのですが、みんなの前で発表できるようになったことが成長したなと思いました。

最後に、将来の夢は何ですか。

水族館の人です！(驚)



▼あとがき▼遥紀さんのアイディアの種は、何気ない日常生活の中に潜んでいた▼情報リソースとしてのテレビ、図書館、日常生活、学校生活等

アドバイザーとしてのお父さんから

ちょっと落ち着きがない子だったのですが、プレゼンという一つの目標ができて、いろいろな考えをまとめていく作業をとおして、自分の考えを他の人に説明することが好きになっていったみたいです。少しずつ形になることが、楽しかったみたいです。

作業をするときは、小学1年生ですので、自分でできる部分とできない部分があり、なかなか大人の思いどおりにはいきません。1回アドバイスをして、5回は我慢するみたいに、こちらが我慢することが大切ですね。例えば、紙を貼るにしても、一つ試して、次どうしようかっていう時に、こちらからは口出しをしないように我慢します。大人だと、違う材質でやってみようかとか、接着剤を変えてみようかとか、テープで貼ろうかとか、そういう話になるんですけど。

また、長男が小学3年生でこのコンテストに出させていただき、長崎から東京に初めて行きました。子どもは都会を見て、感銘を受けていたことをちょっと考えていた時期でした。勉強して、いろんなことができるようになれば、東京に行って、さらに世界にも行けるんだと考えるようになったようです。

長崎の小さい町で生きていますが、ホンダの方に呼んでいただき、東京を肌で感じることができました。こういう世界があり、自分も挑戦し、いろいろなことにチャレンジできるんだっていうイメージができたようです。そして、普段の生活もちゃんとしなくてはと、自分の普段の生活につなげて考えることにつながったようです。

今、長男は小学6年生ですが、東京の大学に行きたいと、言うようになりました。本当にこのコンテストがあってよかったと思います。

は、未来につながる宝庫だ▼また、チャレンジシートに、「スワームくん」とぼくでがんばるぞ。おー!!!とあるように、発表練習時には、もう「相棒」と化している▼それは、昼休みに校内のミミズを観察し続けたところから始まり、一緒

に試練を乗り越えた過程に起因するだろう▼今回のインタビューでは、遥紀さんを見守るご家族の考え方に筆者自身が感銘を受けた▼どうしても見逃せない▼本紙では、アドバイザーである保護者の言葉を多く掲載させていただきます▼拝▼(YA)